

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3211069号
(U3211069)

(45) 発行日 平成29年6月22日 (2017.6.22)

(24) 登録日 平成29年5月31日 (2017.5.31)

(51) Int.Cl.

A 6 3 B 57/10 (2015.01)

F 1

A 6 3 B 57/10

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2017-1595 (U2017-1595)
 (22) 出願日 平成29年4月11日 (2017.4.11)
 (31) 優先権主張番号 17000164.8
 (32) 優先日 平成29年2月2日 (2017.2.2)
 (33) 優先権主張国 欧州特許庁 (EP)

(73) 実用新案権者 517127241
 フェルナンデス オガンド, ホセ アンヘル
 スペイン国 33203, アストゥリアス,
 ヒホン, エスカレラ 19-20, アヴェ
 ニーダ ホセ ガルシア ベルナルド
 368
 (74) 代理人 100091683
 弁理士 ▲吉▼川 俊雄
 (74) 代理人 100179316
 弁理士 市川 寛奈

最終頁に続く

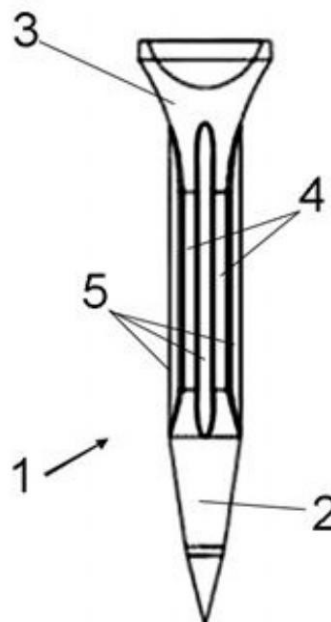
(54) 【考案の名称】 ゴルフティー

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】地面に安定に固定されるとともに、打たれたときに短い距離で着地する、安定性を有するゴルフティーを提供する。

【解決手段】ティー 1 は、地面に突き刺すための尖った円錐状の端 2 と、ボールを保持するためのヘッド又はカップ 3 との間の中間領域の母線方向に、或る種のウイングとして対応するリブ 5 を形成するための複数の長手方向溝 4 を有する。この構造は、ティーをより安定した方法で地面に固定することを可能にし、また打たれたときに、従来のティーよりもはるかに短い距離において着地し、ティーを回収することを容易にする。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

円錐状の下端（２）、及び、打たれるボールを保持するようにカップ形状のヘッド（３）が載せられる上端を有する細長い円筒形の本体を含むゴルフティーであって、

前記本体の中間領域は、前記本体の前記中間領域の母線の方に複数のウイング状のリブ（５）を形成する複数の長手方向溝（４）を有することを特徴とするゴルフティー。

【請求項 2】

複数の長手方向溝（４）は、前記ウイング状のリブ（５）を形成し、円周方向に等間隔に分配されていることを特徴とする、請求項 1 に記載のゴルフティー。

【考案の詳細な説明】

10

【技術分野】**【0001】**

本考案は、ゴルフティー、すなわち、ゴルフクラブによって打たれる場合に、ゴルフティーにかなりの安定性を提供する幾つかの長手方向リブを有するという特性を有する、ファーストストロークを行うときにゴルフボールを支持するスタンドに関する。

【背景技術】**【0002】**

ティーは、プラスチック、樹脂、金属、又は、任意の他の適切な材料から作ることができる。

【0003】

20

ゴルフプレーヤーは、ティーと呼ばれる装置を使用し、ティーは、地面に押し込まれ、ボールがティーに配置されると、地表面の上に立ち、これによってプレーヤーがクリーンに打つことを可能にするように、それぞれのホールに関してプレーの始めにボールの安定した載置点を画定する。

【0004】

しかし、ティーは通常、ティーを地面に突き刺すための尖った下端、及び、ボールを安定して保つための上部の何らかの種類のヘッド又はカップを有する回転体からなり、それによって、回転体は、完全に滑らかな外面を有し、ゴルフクラブで打つときに、ティーの上部が打たれる場合に、ティーは遠く離れて飛び、見つけるのが難しくなる。

【考案の概要】

30

【考案が解決しようとする課題】**【0005】**

すなわち、従来 of ティーは、打たれたときに安定性を欠く。

【0006】

推奨されているティーは、単純であるがかなり効果的な解決策によって、上述した問題を成功裏に解決する。

【課題を解決するための手段】**【0007】**

正確には、このティーの特性は、側面、より具体的には、先端と、ボールが配置されるヘッド又はカップとの間の領域が、母線の方に幾つかの長手方向リブを有することである。それらの数は、変えてもよく、リブは、ティーの本体の側面にある或る種のウイングとして対応するリブを定める幾つかの長手方向溝を有するこの中央領域の結果として形成される。

40

【0008】

このように、ティーは、下側端において従来からの円錐状の形態を維持し、これは、ティーが地面に突き刺さること、及び、カップ形状の上側ヘッドがボールを保持することを可能にし、一方で、ティーの中央体は、ボールを打つときにティーを地面に固定することを可能にする。

【0009】

ティーに長手方向溝を作るときに製造されるリブ又はウイングの数は、２つ、３つ、４

50

つ又は任意の他の数であるものとすることができ、この理由は、ボールを打つとき、及び、ティーがゴルフクラブによって打たれる場合の双方に、本当に重要なことが、装置を地面に固定し、装置をより安定させることであるためである。

【 0 0 1 0 】

したがって、この構造に起因して、ティーが打たれる場合に、ティーは、従来のティーと比較してより短い距離に着地し、これは回収をより容易にする。

【 0 0 1 1 】

最後に、ティーの構造が単純で製造が容易であり、要するに、その製造コスト及び販売価格が低いことに言及しておかなければならない。

【 0 0 1 2 】

以下の記載を補足するとともに、本考案の特徴のより良い理解を助けるために、実際の実施の好ましい例として、複数の図面が、説明の一体部分として本明細書に添付されている。それらの例は、専ら例示目的で与えられており、限定的であることは意図されない。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 3 】

【図 1】本考案に従って作られたゴルフティーの正面図である。

【図 2】上述した装置の上面図である。

【図 3】上述した装置の底面図である。

【図 4】リブの高さにおけるティーの断面図である。

【図 5】上述した装置の斜視図である。

【考案を実施するための形態】

【 0 0 1 4 】

上述した図によると、概して (1) として言及されるティーが、細長い、プラスチック、木、金属、樹脂、又は、別の適切な材料から作られる本体からなり、ティーを地面に突き刺すための円錐状の下端 (2)、及び、ボールを安定させるためにカップとして形成されるヘッド (3) を有する上端を有することが分かる。

【 0 0 1 5 】

しかし、これらの従来の特徴に加えて、このティーは特別な特徴を有し、これは、本体の中間領域が、ティーの本体の中間領域にわたって円周方向に等間隔に分配される或る種の長手方向ウイングとしてリブ (5) を形成する母線の方に複数の溝 (4) を有するためである。

【 0 0 1 6 】

このように、リブ又はウイング (5) に起因して、ティーは、はるかにより安定した方法で競技場に押し込まれ、これは、ティーがより短い距離に放たれ、回収するのがより容易であるため、ボールの安定性、及び、ティーが打たれた場合のティーの可能性のある発射の双方にとって良好である。

【符号の説明】

【 0 0 1 7 】

- 1 ティー
- 2 下端
- 3 ヘッド
- 4 長手方向溝
- 5 リブ

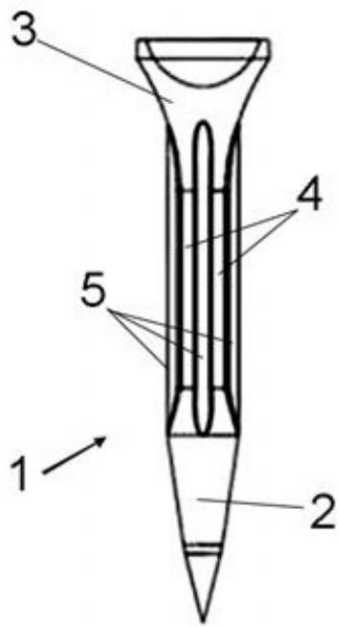
10

20

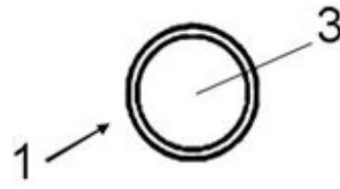
30

40

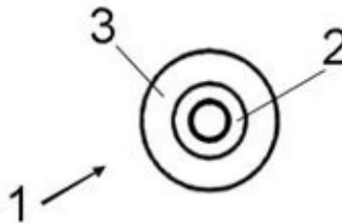
【図 1】



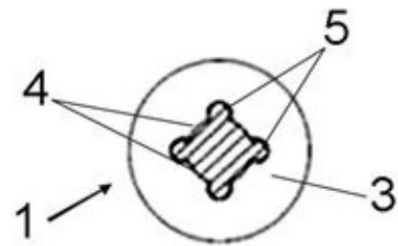
【図 2】



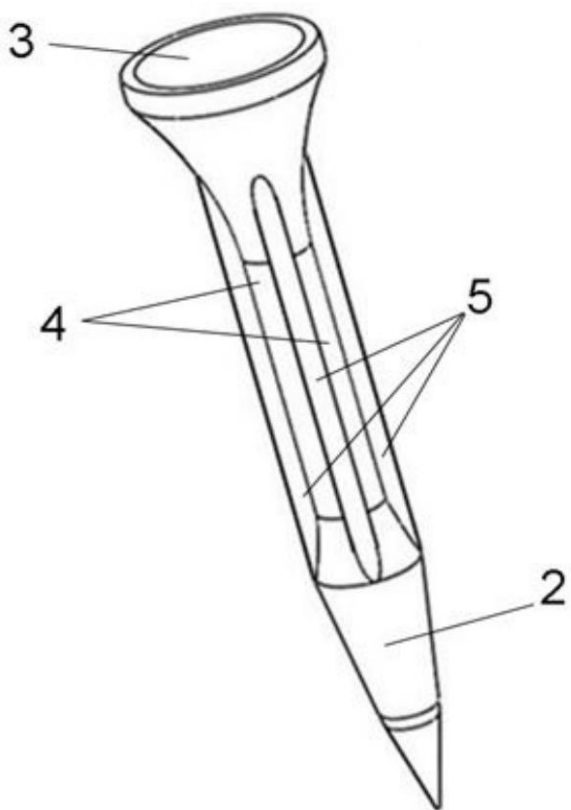
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

(72)考案者 フェルナンデス オガンド, ホセ アンヘル
スペイン国 33203, アストゥリアス, ヒホン, エスカレラ 19-20, アヴェニーダ ホ
セ ガルシア ベルナルド 368